

国語

国語科における指導の重点(身に付けさせたい力) ※学習指導要領に照らし合わせて	
ア 知識及び技能	イ 思考力、判断力、表現力等
言葉がもつ価値を認識するとともに、言語感覚を豊かにし、我が国の言語文化に関わり、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養うこと。	【書くこと】特定の課題に応じて必要な情報を選択し、正確に分かりやすい表現で文章を構築すること。

	生徒の学力の状況(課題)	授業における具体的な手だて	手だての実施時期	成果検証(2月)
第1学年	ア 小学校段階での言語知識があまりなく、文章の中で漢字を使うことが難しい生徒もいる。 イ 自分の考えをまとめて書くことが難しい生徒もいる。	ア 毎時間の授業の中で、言語知識に関するプリントを配布し取り組ませ、知識の定着を図る。 イ 短い文章から作文まで、スモールステップで少しずつ書くことに慣れさせていく。	・通年	
第2学年	ア 文章を書いたり入力したりする際に、話し言葉が混ざってしまうことがあり、そのことに自分で気付くのが難しい。 イ 自分で一度書いた文章を見直し、推敲することが難しい。	ア ワークシートに記入したものを提出したり、ロイロノートのアンケート機能を使用したりする際にも、話し言葉にならないよう指導する。 イ 意見文を書く単元では、一度書いて完成ではなく、よりよい文章を目指して推敲するよう授業計画を行う。	・通年	
第3学年	ア 言語知識は標準的だが、文脈の中での用法理解が難しい生徒がいる。 イ 知識や各々の考えはしっかりと身につけてきているが、伝わりにくい文章を書いてしまう生徒が多い。	ア 漢字や語句の小テストを実施するとともに、文章中の単語や言い回しに注目した授業展開を行う。 イ 文章を整理し、分かりやすくするために「根拠」と「展開」を意識して文章作成をさせるように指導を行なう。	・通年	

<p>■「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に向けた一人一台端末等 ICT の効果的な活用について</p> <p>1年:それぞれの教材の理解を深めるために教科書にあるQRコードを補助資料として使う。【重点:個別】 2年:ロイロノートに意見を提出し、他者の意見と比較できるようにする。【重点:協働】 3年:課題作成において、生徒が必要に応じて ICT 端末を用いて情報を引き出せるようにする。またロイロノートにより意見共有をし、新たな視点に気付かせる土壌づくりをする。【重点:協働】</p>	<p>■学習の見通しをもたせることや学習を振り返ることの工夫等、「学びに向かう力」の育成に向けた取組について</p> <p>1年:本時の内容を理解させ、単元ごとに振り返りをする。 2年:単元ごとに振り返りをさせ、3年間の系統的な学びを意識させる。 3年:本時の授業が学習全体の中でどのような意義を有するか、今後どのように授業が展開するかを明示し、学習の見通しをもたせる。</p>
---	---